

ふくい女性ネット REPORT

ふくい女性ネットとは…

県内の企業、事業所、団体等で活躍中の女性が、相互交流、自己研鑽、企業等における女性の活躍促進を目的として、講演会や交流事業、情報発信事業に取り組んでいます。
<http://pref.fukui.lg.jp/doc/danken/f-net.html>

第4期の活動を開始して半年が過ぎ、メンバー同士のコミュニケーションもスムーズになってきました。今回は、J-Winとふくい女性ネット連携フォーラムの様相を紹介します。講演会や分科会を通じて自分なりのリーダー像について考え、意見を交換するなかで意識を高めることができました。

＊J-Win・ふくい女性ネット連携フォーラム2011＊

主催：福井県、共催：NPO法人J-Win、企画運営：ふくい女性ネット

平成23年11月19日(土)、福井県中小企業産業大学校にて今年で3回目となる「J-Win ふくい女性ネット連携フォーラム2011」を開催しました。

今回は女性として自分なりのリーダー像を模索してみよう、そして一歩踏み出してみようという趣旨で、フォーラムのテーマを『「私だからこそ」のリーダーを目指す』として企画したものです。

共催のNPO法人J-Win（ジャパン・ウィメンズ・イノベイティブ・ネットワーク）は、会員企業のダイバーシティ&インクルージョン（多様性と包括性）の推進をさまざまな形で支援する団体です。2007年からNPO法人化し、会員企業から女性エグゼクティブを輩出することを目的に候補となる女性メンバーたちのネットワーキング活動を行い、相互に刺激しあいながら女性リーダー育成を目指しています。

前半はJ-Win OGメンバーの坂本友理さんの講演会、後半はJ-Win OGメンバー3名をファシリテーターにお迎えし、3つの分科会に別れてディスカッションを行いました。

「前向きに取り組むと、仕事は楽しくなる！」

坂本 友理さん

㈱ジェイティービー能力開発 執行役員 営業部長

（㈱ジェイティービー能力開発 執行役員 営業部長である坂本友理さんに、これまでの仕事の経験等をもとに、「私は活かされている～運・タイミング・チャンス・人とのつながり～」と題して講演していただきました。

坂本さんのキャリアを振り返ると、配属先での尊敬できる上司との出会い、お叱りを頂戴したお客様との出会い、J-Winとの出会いが、自分自身を成長させてくれたとのこと。また、周りの人からいただいた、自分を楽にしてくれたり、支えてくれたりした宝物のような一言を紹介していただきました。

例えば、仕事で悩んでいた時の一言は、「周りでフォローするからやってみて」「坂本色にすればいいんだ」「コンプレックスは成長の栄養源」「自信を持ちなさい(父親から)」。背中を押された一言は、「女性からアクションを起こしなさい」「女性は火中のクリを拾う覚悟が必要」「目標を1、2ランク上に持つ」。このような自分に力をくれた一言をいただいたのも人とのつながりがあったからこそと話されました。



(講演する坂本友理さん)

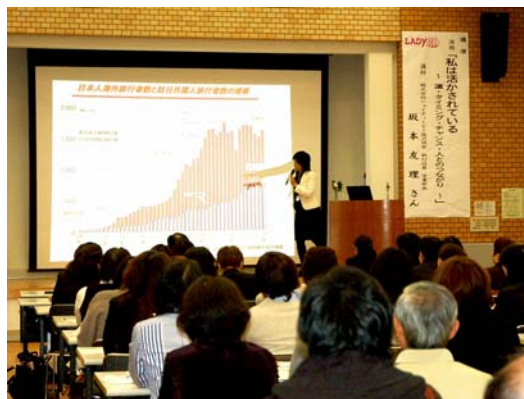
また、配属先の業務に常に前向きに取り組まれ、「断らない」をモットーに、労働組合の役員、業務横断的プロジェクトはもちろん、先輩からの飲み会の誘いに至るまで、「何でも断らない」ことを心掛けたとのこと。その結果、仕事がかつてくる→楽しくなる→もっと積極的に仕事に関わるようになるという好循環が得られたというお話で、前向きに仕事に取り組むことの大切さを強調されました。

「会社がタイミングよくいろんなチャンスを与えてくれ、それに対し、前向きに取り組んだ。また、人とのつながりが自分を成長させてくれ、くじけずに進んでこられた。それが次のチャンスと呼んだように思う」と総括されました。

「前向きに仕事に取り組むと、仕事楽しくなる、楽しくなるとより積極的に仕事に取り組むようになる」「仕事のステージを楽しむ」など、「楽しむ」という言葉が印象的でした。

また、「何でも断らない、引き受ける」という意識が外見に表れ、ポジティブな好印象をかもし出しておられると感じました。これらを是非見習って、前向きに仕事を楽しくしていきたいと思えます。

(担当：井花)



(プロジェクターを使用し説明する坂本友理さん)

分科会『「私だからこそ」のリーダーを目指す』

『「私だからこそ」のリーダーを目指す』というテーマで、女性リーダーとしての資質などについて、J-Win OGメンバーとふくい女性ネットメンバーが3つの分科会に別れてディスカッションを行いました。分科会ごとの議論を通して、これからの自分への課題および自分が目指すリーダー像を模索しました。J-Win OGメンバーには、ファシリテーターをしていただきました。議論の運営について実践的なスキルを身につけるため、ふくい女性ネットメンバーもサブファシリテーターを務めました。

分科会1 「自分の長所を生かして」 糸藤友子さん

(株)ベネッセコーポレーションW&F事業本部 通販事業部 商品開発課 課長



(長所を生かすことについて、ふくい女性ネットメンバーと話し合う糸藤さん(左から2番目))

まず、「リーダーのイメージ」について全員で意見を出し合いました。最初は、リーダーは長時間勤務が大変、みんなを引っ張っていかねばいけない、など、大変だというイメージがメンバーから出されました。引っ張って行こうと思うから辛い。あまり難しく考えないで、自然体でサポートすることを通して、チームのボトムアップができるのではないのでしょうか。そして、そんなリーダー像があってもよいということを話し合いました。

糸藤さんのこれまでの経験談や管理職経験のあるふくい女性ネットメンバーの意見を聞く中で、女性ならではの長所を活かしていけばいいのではないか、という視点を持てるようになったように思います。

分科会2 「足りないところを自覚すること」 白川貴久子さん

(株)NTTドコモ 情報システム部 情報戦略担当 担当部長

リーダーとしてみんなと一緒にやっていく楽しさを白川さんが紹介してくださいました。相手の立場に立って仕事を進めていくと、自然にリーダーになっていくというお話でした。

お話を聴くうちにリーダー像が具体的になってきて、自分自身がリーダーになる可能性が見えてきました。また、自分に足りないところを自覚していくことが大切で、自分を高めていく努力が必要というお話もいただきました。



(リーダーとしての仕事の楽しさを語る白川さん(右から2人目))

分科会3 「ロールモデルを見つけよう」 峯よう子さん

(株)NK3ホールディングス システム統括本部

ホワイトボードを使用し、リーダーに対する現在の自分の位置を参加者それぞれが表現してみました。その表現となった理由を一人ずつ述べた結果、部下をまとめたいが自信が無い、という意見が多く出されました。

それに対して、女性は部下が発言しやすい雰囲気づくりがうまいので、それを伸ばしたらどうかという意見が出ました。

また、女性は仕事を人に任せないで自分でしてしまいがちだが、上手に部下に仕事を任せるように心がけるとよいのではないか、自分の弱いところを修正するよりも強みを伸ばすほうが効率的なのではないか、というお話が印象に残りました。

自分のロールモデルを探して、その人をお手本にしてみてもどうか、というアドバイスもいただきました。



(ホワイトボードに自分と「リーダー」との位置を書き出して議論を促す峯さん(右))

ふだん「リーダー像」について女性同士で話し合ったことが無かったのですが、数名での分科会での議論をする中で、結構、みんな同じような理由で、リーダーを目指すことにためらいがあったのだな、ということに気がきました。「私にはリーダーは無理…」と思い込んでしまっていた固定観念や心理的な障害を取り除くことができたのではないのでしょうか。

私は、「リーダーは部下を引っ張るだけではなく、サポートしていく形もあるよ。」という糸藤さんの言葉に新しいリーダー像が見えたような気がします。よい機会をいただき、ありがとうございました。

(担当：井花)

🌸 J-Win OGメンバーへのインタビュー 🌸

フォーラム後、J-Win OGメンバーに情報発信部会がインタビュー。座談会形式で、働く女性
の先輩として、ざっくばらんにお話しいただきました。

Q 仕事で困難に行き当たった時、どうやって乗り越えましたか。

「周りの人の力を借りよう」

坂本：困難はあったけれど、つらいことは覚えていません。乗り越えてみるとみんないい思い出になっています。

峯：初めてのシステムのサポートでのごとでいっぱいいっぱいになっている時、リーダーから「1から10まであなたに求めていない。あなたに求めることがあるからチームに入ってもらった。」と言ってもらえて、悩んでいる状態から脱出できたことがあります。何もかも自分でしなければならないのではなく、自分が求められている役割を考えることが大事だということ、その時、教わりました。



(和やかな雰囲気でのインタビューに応じるJ-Win OGメンバー)

白川：困難といえば、いつでも何かしらの困難を抱えている状態です。その都度、他部門との関係の中で判断を調整し、なんとか乗り越えていっています。

糸藤：一番の困難は、お客様に迷惑をかけること。過去にお客様への商品の配送ができなかったということがありました。対応を一人で背負う形になったのですが、大勢の相手先に一件ずつ謝りの電話をかける仕事を周りの人が手伝ってくれました。振り返れば、自分は、いつも人が困っていると手を差し伸べるようにしていました。それは、そういうときに手伝って欲しくてしていたわけではないのですが、いつも回りに協力しながら頑張っていると、困った時に助けてくれる人が必ず現れるものだと思います。

坂本：困難にあったときには、自問自答の中で閉じこもって悶々とせず、誰かに話すことが大切ですよ。

白川：同感。私もJ-Winに参加して、同じ悩みを共有できるネットワークを持つのは素晴らしいと実感しました。



(質問するふくい女性ネットメンバー)

Q 皆さんは、早い時期からずっとキャリアプランを持って仕事をされてきたのですか。

「ポジションがついてくると一層仕事が楽しくなる」



(自分の経験を交えながら熱意をこめて語るJ-Win OGメンバーのみなさん)

坂本：私が就職した頃は、女性は就職しても結婚したら退職する、という考え方が一般的でした。就職活動のときには「定年まで働くつもりです」と言っていたのですが、女性が定年まで働くことをリアルな感じで想像できなかった。けれども、会社から仕事を与えられ、求められる内容に応じて対応する、ということを繰り返していたら、ここまで来ていた、という感じです。

糸藤：私は子どもが2人いて、子育てしながら働き続けるための勤務環境を求めて2回転職しました。その際、仕事のテーマを「子育てに関係すること」に絞り、そのテーマに沿うような仕事を選んでずっと続けてきました。

白川：私は担当する仕事が変わっても、その都度、「これが天職！」と思って全力で取り組んでいます。そういうノリやすい性格なので、いつも仕事を楽しくやれています。それに、ポジションがついてくると、意見が言えるようになってきて、一層仕事が楽しくなります。

確かに仕事を続ける上でしんどいこともあったけど、家族が「働く自分」を応援してくれたので、その思いに応えたい、という気持ちが支えになって、ずっと頑張ってきたような気がします。



＊ J-Win OGメンバーへのインタビュー つづき ＊

Q 福井の働く女性たちにメッセージをお願いします。

「女性同士のネットワークを大切に」



(坂本友理さん)

坂本： 行きづまったときのリフレッシュのために、J-Winメンバーと楽しくお酒を飲むことが多いです。昔は同僚の男性などと飲んでいましたが、男性と飲んでも人事の話など仕事の話中心になりがちで、つまらないと感じてしまいます。女性だと仕事はもちろん趣味や美容など話題が幅広く、リフレッシュすると同時に成長していると感じます。女性同士のネットワークを大切にしたいと思います。

糸藤： 仕事と子育ての両立に悩んでいる方もいらっしゃると思いますが、仕事と子育てのバランスは5:5でなくては、4:6でなくては、というふうに固定するものではないと思います。あるときは7:3、あるときは2:8など、柔軟に対応していくのが、長く続けられ、楽しめるコツかな、と思っています。

仕事には真剣に取り組めますが、じっくり子どもと向き合うのもとても豊かな時間だなと感じられますよ。

白川： J-Winには関西から参加していたのですが、ここに来ているメンバーとネットワークができて本当にありがたかったと思っています。私は、ちょっとへこんでしまった時があったら、坂本さんなど好きな人に会いに行き、いろんなことをお話します。好きな人に勇気を出してアプローチしてみてください。好きだという気持ちで近づけば、相手も絶対嫌な気はしないはずです。

峯： 私は20数年専業主婦をやってから、今の会社に入り、現在6年目です。長年PTA役員などをやっていたので、コミュニケーション能力を買われて採用されたのかな、と思っています。J-Winではいろいろな知らない世界を体験させてもらって成長できました。

仕事でいっぱいいっぱいになっている時、事情を知らないはずの

J-Winメンバーから「メールの感じがいつもと違うよ。大丈夫？」というメールが届き、思わず涙があふれてしまったこともあります。

そんなネットワークを大切にしてください。ふくい女性ネットも部会の取組など大変だと思いますが、とても有意義な活動だと思いますので、頑張ってください。



(白川貴久子さん)



(峯よう子さん)

＊ J-Win OGメンバーとの懇親会 ＊

フォーラム後、J-Win OGメンバーとの懇親会で、より深い交流ができました。働く女性同士として、また、ロールモデルとして大考になるお話をたくさん聞けました。フォーラムのテーマである自分だからこそそのリーダー像についても、より身近に、より具体的につかめたと思います。



(懇親会場で全員で記念撮影)



＊ 感想 ＊

【ふくい女性ネットメンバーから】

- ・リーダーだからといって完璧でなくていい、女性ならではの目配り・気配りをもって接していく、など今回の講演会や分科会で学んだリーダーとしての心得は、完璧でなければいけないというリーダー像の枠を取り払い、私にも出来るのではという自信に繋がりました。
- ・家庭面でも仕事面でも前向きで、マイナスをプラスに変えるエネルギーに満ち、ともかくパワフルでダイナミック！という印象を白川さんから受けました。今回の分科会で色々なお話を伺い勉強になったことはもちろんですが、講師の方々のパワーをいただいたことも私にとっての収穫だと思いました。
- ・J-Win OGメンバーがそれぞれの生き方、仕事への取組をされながら、輝いていらっしゃるのを目の当りにして、たいへん勇気づけられました。

【講演会に来場いただいた方から】

- ・女性が活躍されている実例を知ることによって元気をもらいました。
- ・具体的に経験を述べながらの話だったので、講師の経験と自分のこれまでとを比較しながら聞けた。親しみが湧いた。
- ・講師の方の過去を振り返ったお話を聞く中で自分と重なる部分もあり、自分の振り返りも大切だと感じました。

隣の女子社員★

第3回目は・・・越前町役場へ突撃！

平成17年2月に、4町村が合併して誕生した“新・越前町”では、「人と技海土里織りなす快適なまち」を目指し、各種行政サービスを行っています。そこでいきいきと働く20代の若手女子職員にインタビュー！

職場の華!? みなさんが毎日を笑顔で過ごす秘訣は・・・?

《インタビューにご協力いただいたみなさん》



姉崎さん(介護福祉士)
南さん (保健師)
藤野さん(高齢化が進む集落に関する支援 ほか)
三上さん(行政改革、町内のお知らせ情報配信)
菱谷さん(食育推進 ほか)
神崎さん(町の広告関係 ほか)
川崎さん(子ども医療費の諸手続き ほか)
宮崎さん(商工関係 ほか)
安原さん(町道の占用申請に係る事務 ほか)
飛田さん(外国人登録 ほか)

①エネルギーの源、原動力は？

- ・毎日、その日1日の目標を決めて、それをクリアしたときの達成感です。
- ・家族や恋人、友人と話したり遊んだりしてコミュニケーションをとることです。
- ・約束や予定をたてて、先々の楽しみを作っておくようにしています！
- ・イライラする事もありますが、今は子どもです。
- ・笑った顔を見ていると癒されます。
- ・毎日3食必ず「米」を食べることです。米を食べないと1日が始まりません(笑)。とりわけ、母親の作ってくれるご飯が一番です。



②どういう時“楽しい”と感じる？

- ・職場の雰囲気がよく、みんなも自分も笑顔でいられるときです。
- ・友人など同年代の人はもちろん年代の違う人たちと話をしていると、多少の緊張はありますが、自分にはない考え方や感じ方、年長者だからこそその意見に考えさせられたり、感動したりとよい機会になっています。
- ・仕事でもプライベートでも、体を動かしていると気持ちがよく楽しいです。



次頁へ→



③日々気をつけていること、工夫していることは？

- ・仕事での電話や接客は丁寧に対応し、上司へは報(告・)連(絡・)相(談)するよう気をつけています。
- ・ほかにも、嫌なことを後回しにしないようにしています。
- ・接客やクレーム対応時には「何事も経験！」と自分に言い聞かせて前向きに捉え、苦手なことの中にも楽しさを見出そうと心掛けています。
- ・常にポジティブでいることは難しいですが、よく笑ってストレスを溜め込まないようにしたり、冗談を言って笑いの絶えない楽しい課になるよう、雰囲気づくりに気を配っています。
- ・何事にも“余裕”をもって取り組むことや、やる気が起きないときには「私がやらないと誰かに迷惑がかかる」と奮い立たせることです。ただし、極力1人で抱え込まないようにして、課のみんなに助けられています。
- ・毎日1つでもミス無くすように気を張っています。
- ・周囲の人や物に感謝し「ありがとう」と言うことです。
- ・プライベートでは、食べた後すぐに横にならないようにしたり、毎日少しでも体を動かしたりしています。
- ・どんなに疲れていても、寝る前には必ず化粧を落とすようにしています。

④リフレッシュ法は？

- ・ONとOFFの切り替えをはっきりして、プライベートには仕事の悩みを持ち込まないようにします。
- ・嫌なことや自分の中での大きな物事が終わると、友人と一緒にパークと遊びに行ったり、旅行したりすることです。それを楽しみに嫌なことも乗り越えています。
- ・休日は好きなことを思いきりすることです。例えばバドミントンやウォーキング、趣味のダンスなどで体を動かしたり、外出するとリフレッシュできます。
- ・特別なことはなくても、友人と話をするだけでも気分転換できます。
- ・趣味に没頭したり、外出したり、現実逃避したり…1人の時間を満喫することです。
- ・これと言って目的なしでも、1人でする外出がいい息抜きになります。
- ・好きな入浴剤を入れて長風呂したり、よく眠ったりすることです。
- ・湯上りの1杯が楽しみです(笑)。
- ・楽しいお酒は次への活力源にもなっています。



女性ならではの、若手職員ならではの意見に共感することが多々ありました。

みなさんと一緒に、元気あふれる笑顔で職場の雰囲気を盛り上げていけたらと思います。ご協力ありがとうございました！

(担当: 谷口)

ふくい女性ネット川柳 「日本酒で 記憶なくして 年忘れ」 ペンネーム ペこたん